



## 美里水源の森の整備

# みえ森と緑 の県民税

### みえ森と緑の県民税市町交付金の活用

みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、測量と散策道、駐車場などの施設整備に係る実施設計を行いました。

平成27年度からみえ森と緑の県民税市町交付金を活用して整備を始める予定です。

※くらしの安全・安心を守り、豊かな森林を次の世代に引き継ぐため、洪水や山崩れに強い森林づくりのほか、子どもたちへの森林教育や、県産材を活用した公共建築物等の木造化などに役立てていくため本年度より三重県で導入されています。

### 企業の森の調印とセブンの森植樹

10月16日(木)に三重県、津市、一般財団法人セブン-イレブン記念財団が企業の森に係る森林保全協定に調印しました。

10月18日(土)には三重県下のコンビニのオーナーを中心に90名余が美里水源の森に植樹をしました。今後、5年間にわたって草刈りや補植などの森づくりをしていただくことになっています。



### どんぐりの森と里山体験学習

11月15日(土)TOTO株式会社の社員とその家族112名種まきと植樹をし、午後からは、地域が開催する里山体験学習に参加し、交流しました。



### 林業体験学習会

11月18日(火)美里林業研究グループの指導のもと美里水源の森において、美里地域の小学校5年生が、間伐材を利用した林業体験学習をしました。



## 年始のゴミの受入れ

### 1月4日に焼却施設で「燃やせるごみ」の臨時受入れを実施します。

年末から年始にかけてのごみ焼却施設の休業日が、長期間となるため、下記のとおり焼却施設において燃やせるごみの個人搬入の臨時受入れを実施します。

**日時** 平成27年1月4日(日) 午前8時30分から正午まで

**場所** 西部クリーンセンター 及び クリーンセンターおたか

※白銀環境清掃センター(燃やせないごみや容器包装プラスチックなど)は受入れを行いません。

#### 【問い合わせ先】

・津市環境部環境施設課 (津市西丸之内23番1号 本庁舎3階) ☎229-3127

#### 【1月4日当日の問い合わせ先】

・西部クリーンセンター (津市片田田中町1304番地) ☎237-5389

・クリーンセンターおたか (津市森町2438番地1) ☎256-8122

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本・特別	かめやまの木づくり支援事業
事業費 1,181,440円（うち交付金：1,181,440円）		

**1. 事業の目的**

多くの市民に利用される市内の公共的施設に亀山市産材を使用した備品類を設置してもらい、市民が亀山市産材とふれあう機会を創出する。

また、亀山市産材を使用することによって、市内の森林整備につながり、植える・育てる・伐採する・利用するといった健康な森のサイクルが発揮される。

**2. 事業の内容**

【事業内容】多くの市民に利用される市内の公共的施設において、亀山市産材で製作した木製家具の購入に要する費用に対して支援する。

【事業主体】公共的施設管理者

【事業費】1,189,800円

【事業の規模（事業量）】6施設

【補助対象施設】亀山市公共建築物等木材利用方針第3に規定する施設  
私立間保育所、私立幼稚園、社会福祉施設、民間病院又は診療所等

【補助対象経費】亀山市産材で製作された机、椅子（屋外ベンチ含む）、本棚、下駄箱等の木製の家具の購入にかかる費用

【補助率等】補助金額：1施設1回限り、20万円以内 補助率（10/10）

【事業実施期間】平成26年10月1日～平成27年3月31日

**3. 事業の実績と効果**

【事業の規模（事業量）】支援した公共的施設数 6施設（私立保育園5施設、私立幼稚園1施設）

【恩恵を受ける人数】施設利用者（園児1,080名）

**4. 事業の評価と今後の取組方向**

【事業の評価】

評価の視点	コメント
有効性	地元の木材に触れる機会を設けたことは、各園の園長や園児、保護者から高評価をいただいた。
効率性	市内の木材組合に発注することで、各製材所の繋閉に応じ振り分けてもらい、効率的に事業が実施できた。
公益性（波及度）	この事業により、各園で森の大切さや木の良さを園児や保護者に伝えていく活動を実施するきっかけとなった。

【今後の取組方向】各園長から今まで県産材や国産材で家具や施設は発注していたが、地元の木材が使用できることを知り、今後は亀山の木を使っていきたいとの意見をいただいた。次年度以降は、引き続き社会福祉施設への導入をPRしていく。

**5. 写真**



導入写真（第三愛護園）



導入写真（みずきが丘道伯幼稚園）

**6. その他特記事項**

PR用の市産材証明シールを作製し貼り付けてPRしている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本・特別	間伐材テクニカルボランティア部活用事業
事業費		1,350,000円(うち交付金: 1,350,000円)

**1. 事業の目的**  
 市内学内クラブ活動で間伐材(市内産)を利用し、木工製作を行っている組織に対し、木工製作用機械を購入貸与する。中学生クラブ活動において、県産間伐材を活用した木工品製作に取り組み、木材とのふれあいを通じて森林への関心を高める。

**2. 事業の内容**  
 木工用機械の購入  
 【内訳】チェーンソー (3台) 210,600円  
 自動カンナ盤 (1台) 687,528円  
 木工旋盤機 (2台) 451,872円  
 計 1,350,000円  
 【事業主体】いなべ市(学校教育課)  
 【事業期間】平成26年12月25日～平成27年3月20日

**3. 事業の実績と効果**  
 中学生が木工製作を通じてその技術を習得することはもとより、森や木の必要性や大切さを思う心を育てる教育に役立っている。

**4. 事業の評価と今後の取組方向**

【事業の評価】

評価の視点	コメント
有効性	クラブ活動の目的【①森林資源の大切さ②放置森林の解消(間伐の必要性)③木の良さ④木のリサイクル(循環型社会の大切さ)】を活動を通じて社会に発信している。
効率性	機械の購入にあたっては、競争入札を行った。(落札率80.6%)
公益性(波及度)	木製品(ベンチ、椅子等)の販売で得た資金は発展途上国や災害支援等のNPO活動支援金として寄付を行っている。

【今後の取組方向】  
 間伐材を利用しベンチ、テーブル等を製作し、寄贈・販売をする。収益は発展途上国の安全な水が得られない村に井戸掘りの支援資金として活用する。また、体育祭全校太鼓に使う太鼓バチ、いすの製作を行う。

**5. 写真**



チェーンソー使用状況



自動カンナ盤使用状況



木工旋盤機使用状況

**6. その他特記事項**  
 この事業により導入した大安中学校における木工用機械を活用した成果は、いなべ市広報誌リンクH27年4月号「情熱が国境を越えて」、や三重の林業2015年5月号「この人に聞く」のページで紹介している。  
 今後も、広報誌等への掲載、イベント等における紹介の機会に、いなべ市が取り組んだ「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」の内容を紹介することに努めます。

# いきいき! マイタウン



◀柔らかな光に包まれる梅

まちで起こった出来事や  
気になるあの人を紹介します。



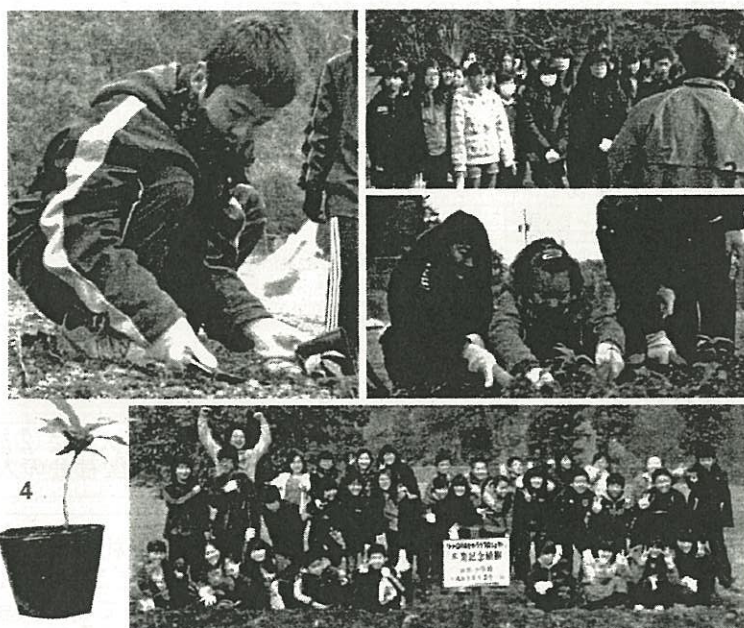
## 大きくなあれ

2月12日(木)、青川峡キャンプパークでどんぐりの木の植樹が行われ、治田小学校6年生の児童33人がスコップを使って苗を丁寧に植えました。

この植樹は、B&G財団の体験型環境教育の一環で開かれたもので、苗は参加した児童たちが、4年生の時に授業で集めたどんぐりから育てていました。

児童たちは代わる代わるスコップを手に土を掘り、苗を穴に入れて優しく土を覆いかぶせては歓声を上げて喜んでいました。

① 苗の植え方について説明を聞く児童たち ② スコップを使って丁寧な作業を繰り返す ③ 子どもたちが育てたどんぐりの苗 ④ 最後にみんなで記念撮影



## 情熱が国境を越えて

2月11日(祝・水)、東京・渋谷のSYDホールで第9回「SYD ボランティア奨励賞」の贈呈式が行われ、最高位の文部科学大臣賞を受賞した大安中学校テクニカルボランティア部に賞状が授与されました。

部員たちは、いなべ市内のスギ、ヒノキなどの間伐材や廃材でベンチなどを作り、収益金で開発途上国に井戸の建設資金を送ろうと活動を展開。

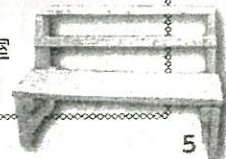
ものづくり、環境教育、地域とのつながり、国際貢献など人間性を豊かにする複合的な要素が詰め込まれた活動が高く評価されました。

1.スピーチ終了後に授賞式会場にて。部長 出口 蒼さん 2年生 2.北勢町の山林にて伐採 3.4.いろいろな工具を使って製作 5.ボルトを使って組み立てるため頑丈な作り



部員が作ったベンチ、テーブルを販売します!

- 日時 3月15日(日)、21日(祝・土)
- 時間 10:00 ~ 12:00
- 会場 大安中学校 旧木工室
- 価格 2,000 ~ 10,000 円



この人に聞く ～第56回・大安中学校テクニカルボランティア部顧問 出口 省吾 先生～

聞き手：四日市農林事務所 林業普及指導員 柳田 国男

今回登場していただくのは、大安中学校のテクニカルボランティア部を再開された出口省吾先生です。



出口省吾先生



作品販売会へ出品した作品

**Q** 大安中学校に昨年戻って来られてテクニカルボランティア部を再開されたそうですが、どのような1年でしたか？

**A** 8年もブランクがあったので、戻って来た時にはテクニカルボランティア部が存在するの心配でした。かろうじて部は存在して部員も一応いましたが、活動はほぼ休眠状態といった状況で、「今年からは毎日活動するぞ」に対して「えっ」といった反応でした。

それでも木工は楽しいことだと信じていたので、物を作ることの楽しさを根気よく教えていきました。

幸い3年生に熱心に取り組んでくれる生徒もいたおかげでたくさん木工品を作ることができ、2回の中学校内の作品販売会と3回のイベントへの出展（森林フェスタにも出展しました）を行いました。また、中学校へ訪れて注文される方もおられ、36万円もの売り上げがありました。

そして活動の目標としている開発途上国への井戸建設費として売上金のうち25万円をフィリピンへ送ることが出来て、何とか活動の目標とするところまで達成できました。

**Q** 素晴らしい活動ですね。それでは、テクニカルボランティア部のいきさつを教えてください？

**A** テクニカルボランティア部は、1998年に立ち上げたのですが、きっかけはある時に

ごみ処理場にごみを捨てて行ったところ、丸太がごろごろといっぱい捨てられていることでした。

いなべは、山に囲まれていて豊かな森が育てられているのに、間伐材が捨てられていることが何とも悲しく「もったいない」ことだなと思い、なんとか利用したいと思うようになったのです。

そんなときに、偶然ログハウスピルダールに出会うことになり、チェーンソーの使い方や木の加工の仕方などを教えてもらうことができました。それが1995年ぐらいのことです。

私も山林を所有しているのですが、まったく手入れがされておらず、むちゃくちゃな状態だったので、まずは自分の山林を間伐して綺麗にしてその木を使うことにしました。

そして、子供たちと一緒に木工をしようということで、1998年4月にテクニカルボランティア部を立ち上げたのです。

自分たちで間伐して、その材でベンチなどを作って、地域の施設などへの寄贈を始めました。

この活動は地域の方に大変喜ばれ、生徒も人の役に立つ実感を得ていました。

その後、2002年に、総合学習で公益財団法人アジア協会アジア友の会（JAFS）の方の講演を聞く機会があり、そこで初めて毎日遠くまで水を汲みに行く仕事に追われ、そのために勉強する時間が無い子供がたくさんいることを知りました。井戸があれば勉強できる時間ができるわけです。

井戸を1基建設するのに日本円で20万円ぐらいできると聞き「それやったら木工品を売ったらできるんじゃない？」という話が部員の間でも盛り上

がり、木工品を販売してその収益金を井戸建設のために寄付金を送ることにしました。

それまでは寄付だったので、木工品製作は自己満足の今から思うと作りも雑でした。

今度は人様から大切なお金をいただくわけですから、いい加減にせず「心を込めた物作りをするというプロ意識」ということを伝えて出来栄は飛躍的に向上しました。

そして2002年に取り組み始めた1年間で25万円の売り上げを作ることが出来て第1回目の寄付をカンボジアへ送ることが出来たのです。

これは大変うれしいことでした。

地域の間伐材等の木材が利用できて、販売も出来て、国際貢献も出来て、生徒たちにはとてもいい勉強になりますし、私にとってもとてもいい勉強になりました。

2003年以後も頑張って製作販売し、毎年井戸1基分の寄付金を送りました。

これまでに、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラディッシュ、フィリピンに送っています。



チェーンソーでの製材もこなす

**Q** テクニカルボランティア部への思いを教えてください。

**A** 基本にあるのは「もったいない」という精神です。先祖が植えて育てた木が捨てられるのはもったいないので木工品として人の使うものを作っています。「木を使う」ということが最も大切なコンセプトとしています。

また、「物作り」は、素晴らしい総合的教育になっていると思います。

ひとつの物を作るにもいろいろなことを考えなければなりません。中学生で学ぶ、数学や理科の知識をフルに活用しますし、共同作業になるので、協調性も必要です。

それと、木工品は販売しているわけですが、物を売ることの難しさと楽しさも学べます。



知識を集結して共同作業で製作

昔は、「物」自体に作っている人の顔が見えていたと思います。だから物を大切にしていたと思います。そういうことはとても大切なことで、物、人を大事にする人を育てたいです。

また、テクニカルボランティア部の部員はどちらかというと運動が苦手な生徒とか特に目的を持っていない生徒が多いです。しかし、物を作る楽しさを覚えると、目を輝かせてきます。

私は目立たない生徒や目的を失っている生徒の生きがいづくりにもなっていると思っています。

今の教育制度は、点数ありきのように感じて将来の日本がとても不安に感じます。

今後も教育というのはとても重要ですが、自分の手で物を作ったり、共同作業で人間関係づくりしたり、人の役に立ったりという体験が教育の中にも必要だと思います。

今後も地元の本で木工品を作り、貧しい地域の子供たちを助ける活動を続けて行きたいと思っています。

(ありがとうございました)



伐採現場にて部員たちと